

□電子デバイス天気予報、新市場台頭で視界良好

2018. 1. 11

AI、車載などが需要喚起、スマホ依存からの脱却不可欠に

半導体を筆頭に、総じて市場が好調に推移した2017年のエレクトロニクス業界。AI／ディープラーニング、車載など新市場が立ち上がったことで、18年の電子デバイス市場も視界は良好といえそうだ。一方で、足元ではアップル新機種の新機種の生産調整、さらには中国スマートフォン（スマホ）も回復の兆しを見せておらず、スマホへの依存度が高い分野は低迷しているところが目立つ。スマホ依存からの脱却が不可欠な状況となる。

本格的に立ち上がった印象のあるデータセンターをはじめとするクラウド関連需要。グーグルやアマゾンをはじめとする大手ITベンダーがデータセンターを相次いで建設するなか、センター内のサーバーには、プロセッサやメモリーなどが多く搭載されており、需要拡大を牽引する。プロセッサではMPUのほか、アクセラレーターとしての役割を担うGPUなどのディープラーニング用プロセッサの採用が増えており、メモリーでは大容量帯の3D-NAND、DRAMが消費されている。

□iPhone X生産半減 1～3月計画比、高価格で不振

2018. 1. 30

米アップルがスマートフォン（スマホ）の最新モデル「iPhone X（テン）」を減産する。1～3月期の生産量を当初計画から半減させる見通しで、各種部品を供給する国内外のメーカーに通達した。有機ELパネルを初採用した「X」の販売低迷は、日本など世界の部品メーカーの生産や業績に影響しそうだ。

アップルは2017年11月の「X」発売時には1～3月期に4000万台超を生産する計画だった。年末商戦で欧米や中国の主要市場で販売が伸び悩んだことで、生産量を2000万台前後に半減させる見通しを部品メーカー各社に示した。発売当初は部品の供給問題から品薄状態だったが、現在は一転して在庫が増え始めており急ブレーキを踏んだ格好だ。

「X」はアップルが初めて有機ELパネルを採用した戦略商品。ただ、1台11万円超と高価な割に、新機能は顔認証や色鮮やかな画面表示にとどまり、革新性に乏しいと受け取られたようだ。iPhone Xは中国などで販売が苦戦している。比較的安価な「8」や「8プラス」、旧モデルの「7」に顧客が流れている。

スマホ黎明（れいめい）期から技術革新をけん引してきたアップルの有機ELモデルの販売が下振れしたことで、後に続く中国のスマホメーカーなどが高価な有機ELパネルの採用を見直す動きも出てきそうだ。アップル自身も18年発売予定の新型iPhoneのうち有機ELモデルの販売計画を縮小し、液晶モデルを増やす検討を始めている。液晶が有機ELに切り替わるディスプレイ産業全体の構造転換が足踏みする可能性もある。

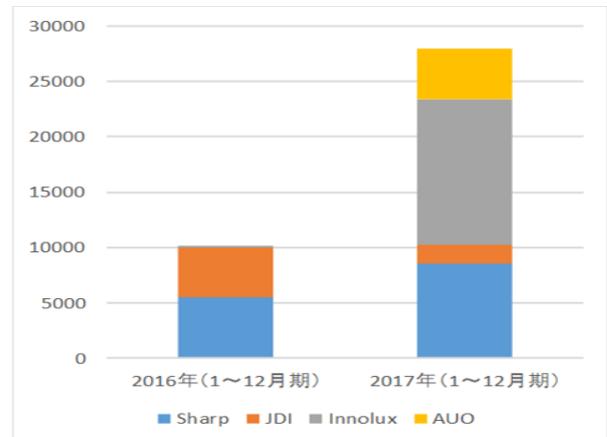
■液晶・次世代ディスプレイ・部材

□サムスン、マイクロLED LGは有機EL 大型パネル競う 2018. 1. 13

韓国の電機大手2社が、米ラスベガスで開催中の世界最大の家電見本市（CES）で最先端のテレビディスプレイや、人工知能（AI）技術を展示し、次世代品を巡る独自技術を世界にアピールした。サムスン電子は微細なLEDを敷き詰めて映像を表示するパネル技術（マイクロLED）を採用した146インチのモジュール型テレビ「ザ・ウォール」を出展した。一方LG電子は超大型の有機ELパネルを組み合わせた長さ28mの「LG OLEDキャニオン」を出展。来場者はカーブした道を歩きながら、200億画素の有機ELパネルが作り出す魅力的な映像を楽しめる。

□Nintendo Switchの好況に沸くゲーム機向け液晶パネル 2018. 1. 9

任天堂は、2017年3月に発売したゲーム機「Nintendo Switch」の累計販売台数が、同年12月10日時点で全世界向け1000万台を超えたことを発表した。同機は発売以降、慢性的な品薄状態が続いており、任天堂は増産のペースを引き上げる構えを見せている。2017年は対前年比で2倍以上に伸びたとみられる。これまで、ゲーム機向け液晶パネルの供給メーカーの中心はシャープとジャパンディスプレイ（JDI）だった。現在も「ニンテンドーDS」シリーズに関しては、シャープが液晶パネルを供給している。また、Nintendo Switchについても当初は、JDIが液晶パネルを供給していた。



ゲーム機向け液晶パネルの出荷推移（TSR 推計）

□ジャパンディスプレイ、「電子棚札」向け高精細電子ペーパー 2018. 1. 16



ジャパンディスプレイは15日、小売店などで商品の価格などを表示する「電子棚札」向けに、幅30センチメートルの高精細電子ペーパーを開発しサンプル出荷を始めたと発表した。黒と白の表示色に、赤や青などのもう1色を加えた3色表示が可能。複数枚組み合わせることで多様なデザインをカスタマイズできる。今夏から今秋をめどに量産を始める計画だ。

□東洋紡 液晶フィルム1.5倍増設 70億円投資 2018.1.16

東洋紡は液晶ディスプレイ向けフィルムの生産能力を、現状比1.5倍に引き上げる。犬山工場に約70億円を投じ、専用生産設備を1ライン増設して2ライン体制とする。[超複屈折フィルム「コスモシャインSRF」](#)が韓国や台湾などでの需要を中心に伸びている。現在生産している敦賀事業所の1ラインと合わせ3ライン体制とする。

□日東電工 TV用偏光板事業を変革、技術料で稼ぐ 着実に利益 2018.1.18

日東電工が液晶テレビ向け偏光板事業の変革を進めている。偏光板の生産技術供与などで技術料を稼ぐ事業モデルに転換するほか、中国での生産にも踏み切る。中国、杭州錦江集団などに偏光板の生産技術を供与する契約を締結。また深セン市に偏光板新工場の建設に着手しており、18年4月に完成し夏に本格稼働する予定。

□ポラテクノ 明るい環境下でも視認性に優れたインセル染料系偏光子と量子ドットを用いボトムエミッション型ディスプレイを開発 2018.1.24

ポラテクノと東北大学藤掛石鍋研究室のグループは、インセル染料系偏光子と量子ドットを液晶ディスプレイに使用し、ボトムエミッション構造とすることで、明るい環境でも視認性に優れた新規なディスプレイを開発した。

一般に広く普及している偏光子はヨウ素系の偏光子であり、LCDのプロセス温度に耐えることができないため偏光子をインセル化することは非常に困難だが、染料系偏光子は耐熱性に優れておりLCDのプロセス温度にも耐えることができるので、今回の提案のようなインセル型の偏光子を使用したディスプレイの実現が可能となった。製品化については3年後の2020年を予定。

□帝人、白色フィルム撤退 付加価値品にシフト 2018.1.26

帝人は液晶ディスプレイ用の白色フィルムから撤退する。2019年3月末を目処に、基幹部品のバックライト反射板に使用する白色ポリエステルフィルムの生産を停止する。最盛期の10年頃は、約40%シェアだったが、ディスプレイ価格が下がり、近年は中国メーカーの攻勢にさらされ生産を大幅に減らしていた。

■有機EL

□日立金属 有機ELディスプレイ用 背面板向け合金増産 最大100億円投資 2018.1.1

日立金属は有機ELディスプレイの背面板などに用いる鉄・ニッケル合金製の材料を増産する。同社は特殊な合金をパネルメーカーと共同開発する。

□パイオニア 曲がる有機EL照明 寿命2倍、車美しく見える 2018.1.5

パイオニアは車載用のフレキシブル有機EL照明を開発した。デザイン性を高めたテールランプなどを開発出来る。コニカミノルタと共同出資で設立した有機EL照明会社に技術を移管して2020年ごろの実用化を目指す。曲率半径が17.5mmまで曲げられる。

□LG Display、「iPhone X Plus」用のディスプレイパネルを供給か 2018.1.8

2018年のiPhoneは、「iPhone X」の後継モデルとされる5.8インチモデルに加え、Plusサイズモデルに相当する6.5インチ型有機ELディスプレイモデルと6.1インチ型液晶ディスプレイモデルが登場すると予想されている。Financial Timesによると、LG Displayは「iPhone X Plus」用のディスプレイパネルを供給する可能性があるとして報じている。同社は、2018年に1,500万枚の有機ELディスプレイパネルを供給すると見られている。LG Displayは6.5インチモデル用の有機ELパネルを供給し、Samsungは5.8インチモデル用を供給すること。Appleは2017年7月に、iPhone用有機ELパネルの開発費用としてLG Displayに27億ドルを先行投資したと伝えられている。

□JOLED、台湾社に21.6型4K有機ELパネルをサンプル出荷 2018.1.8

JOLEDは、台湾のエイヌス向けに印刷方式の21.6型4K有機ELパネルのサンプル出荷を始めた。映像制作やグラフィックデザインなどに使うプロ用モニターに採用された。JOLEDの有機ELパネルが採用されるのは、ソニーの医療用モニターに次いで2社目となる。エイヌスの「ProArt PQ22UC」に採用された。

□シャープ、スマホ用有機EL国内初の量産 自社端末に搭載 2018.1.9

シャープは2018年春にスマホ有機ELパネルの商業生産を開始し、夏にも自社のスマホに採用する。国内勢ではジャパンディスプレイ(JDI)グループが19年にも量産を始めるのに先行し、スマホ向け有機ELの商業生産は国内初。米アップルや韓国サムスン電子などが有機EL搭載のスマホを増やす中、シャープも新たなビジネス機会を探る。

堺事業所(堺市)などに数百億円を投じて有機ELパネルの小規模生産ラインを立ち上げており、このほど量産技術にメドを付けた。すでにサンプル出荷を始めており、2018年4~6月に本格稼働を始める。今後は商品化に必要な明るさや画質を調整する。18年夏以降に発売する自社ブランドの高級機種の一部で採用を目指す。

□山形大 有機EL効率高く長寿命 レアメタル使わず 2018.1.15

山形大学の城戸淳二教授と笹部久宏准教授は、希少金属(レアメタル)を使わなくても発光効率が高く長寿命の有機EL素子を開発した。山形大発ベンチャーのフラスクと共同で開発した。発光層に九州大学の安達教授が開発した特殊な材料を活用した。水素・炭素・窒素などで構成される「熱活性化遅延蛍光(TADF)材料」で電気をほぼ100%の効率で光に変換できる

□aibo の眼は汎用 OLED

2018.1.22



顔のタッチセンサーと眼の有機 EL(OLED)モジュール

タッチセンサーは静電容量方式。両眼の OLED パネルは汎用品で、画素数は 128×128。

□LGディスプレイ最高益 TV用有機EL伸び

2018.1.24

韓国の有機ELパネル大手、LGディスプレイが22日発表した2017年12月期の連結営業利益は前期比88%増の2兆4620億ウォン(約2560億円)だった。売上高は6%増の27兆7900億ウォン。テレビ向けの大型の有機ELパネルの出荷が伸びた。

■タッチセンサー

□SMK、指に振動伝える機能搭載した軽量・薄型タッチパネルの受注開始

2018. 1. 19



SMKは、入力操作時に指に振動を伝える F F B 機能を備えた静電容量方式タッチパネル「キャップビートタッチ O G S = 写真」の受注を始めた。ガラス 1 枚構造の O G S タッチパネルに F F B 機能を搭載。高い操作性と軽量・薄型化を両立した。確実な入力操作が求められる車載機器や F A 機器などを中心に訴求する。月 1 0 万個の生産を目指す。

□アルプス電気 車向け静電入力センサー ジェスチャーを検知 2018. 1. 18

音楽や空調 触れずに操作

アルプス電気は手のジェスチャーで自動車内のカーステレオやエアコンを操作できる静電入力センサーを開発した。スマホに搭載されている静電タッチパネルを応用して開発した。

□J D I 指紋認証センサー 新規事業の育成急務 2018. 1. 24

J D I は 2 3 日、液晶パネルの技術を応用した指紋センサーを開発したと発表した。透明なガラスにセンサーを搭載。ガラスの基板に電子回路を形成し、指が触れたことを感知するタッチパネルの静電容量方式を応用して指紋の凹凸を細かく読み取る。特定顧客の個別製品の開発が始まっており、2 0 1 8 年中に量産するという。

■新技術、材料

- 手のひらで支払い JCB、カード・スマホ不要 2018. 1. 5
クレジットカード大手のJCBは、手のひらをかざすだけで本人確認やクレジット払いができる仕組みを開発した。スマホのカメラを使い、あらかじめ手のひらを撮影して登録しておく、支払時にカードもスマホもいらない。
ユニバーサロボットが手掛ける手相と手の静脈の配置の両方から確認する技術を使うことで、認証の精度が上がった。間違って認識する確率は1千億分の1という。

- 顔認証 中国で拡大 ATM・トイレ◆犯罪捜査にも 2018. 1. 11

- カードが消える日 指・顔だけ「手ぶら決済」続々 偽造リスク低く 2018. 1. 21 日経
手や顔をかざすだけで支払いが完了する「手ぶら決済」が広がっている。他人に複製される恐れのない身体で本人確認するセキュリティーの高さが評価されている。
カードが消える日はすぐそこだ。

- 三菱ガス化学 全固体電池用を開発 電解質20年メド 2018. 1. 5
三菱ガス化学は2020年までに全固体電池用の固体電解質を開発する。錯体水素化物を使った全固体電池用固体電解質の独自製法を持ち、量産化しやすい強みがある。

- 日本電気硝子 結晶化ガラス利用全固体電池試作 2018. 1. 8
日本電気硝子は17年11月、電極に結晶化ガラスを用いた全固体ナトリウムイオン二次電池を試作し、業界初の室温駆動に成功した。電池を無機酸化物素材で構成し、異常発火だけでなく有害物質発生リスクもなくせるという。

- 東大など プラスチックに配向膜 曲がる装置に応用へ 2018. 1. 4
東京大学の横田知之講師と染谷隆夫教授らは東京工業大学や大阪大学と共同で、軟らかいプラスチックの表面に配向膜と呼ぶ微細な溝を刻む技術を開発した。薄膜上に高品質の有機半導体素子を作れることを確かめた。曲がるディスプレイや大面積のセンサーに応用を見込む。独自に開発した「三脚型トリプチセン」と呼ぶ化合物を活用した。

- 慶応大 基盤技術を開発 光配線を3次元作製 2018. 1. 4
慶応義塾大学の石樽崇明准教授らは、3次元構造の光通信用デバイスの作製法を開発した。注射器のような機器で望みの光配線を描き、紫外線で固める。屈折率の異なる2種の樹脂材料を利用し、光が通る導波路の中心の屈折率を高くすることで光の漏れも防いだ。

- キャストム アルミ極薄板溶接 厚さ 0.05mm 端面接合** 2018. 1. 5
キャストム（富山市）は厚さ 0.05mm という極薄のアルミニウム薄板の端面同士の接合溶接に成功した。高精度のレーザー溶接装置を駆使して実現した。
- 物材機構など セラミック開発 亀裂1分で自己修復** 2018. 1. 8
物質・材料研究機構と横浜国立大学の研究チームは、亀裂が入っても最短1分で自己修復するセラミックスを開発した。航空機エンジンのタービンに使用すれば、軽いうえに傷についても飛行中に直せる可能性がある。
- 凸版 VRに凹凸 国宝など、光の反射表現** 2018. 1. 9
凸版印刷は光の反射や凹凸などの質感を忠実に再現できる仮想現実（VR）映像技術を開発したと発表した。高性能カメラで対象物の反射光を分析し、表面の傷など形状の違いによる見え方を反映する。まずは東京国立博物館の文化財に導入する。
- 名古屋大 分子とりこめる液晶 新たな機能性素材に期待** 2018. 1. 9
名古屋大学の田中健太郎教授らは、たんぱく質ほどの大きさの微細な分子を取り込める穴を持った液晶を開発した。環状分子を積み重ねて筒状の穴をつくった。機能性分子などを取り込むことで、新しい触媒や導電性インクなどの材料として利用できると見ている。5年以内の実用化を目指す。
- JXTG フィルム表面に微細な凹凸で光制御 スマホ、車向け応用** 2018. 1. 15
JXTGエネルギーはフィルムやガラスの表面に微細な凹凸を作り、光の波長や向きを自在に操る新技術を開発した。第一弾としてプロジェクターの光を制御する「波長版」 「Naoable」を発売。スマホや自動車のヘッドライトなど、光を使う多くの製品に応用できる。微細加工の根幹を支えるのが「ナノインプリント」と呼ぶ技術。
100%子会社のJX液晶フィルムの辰野工場では量産を始めた。JXTGは曲げても強度や品質が変わらない樹脂材料などを使った製品も開発中。
- 新日鉄住金マテ 炭素繊維シート量産 強さ+加工効率** 2018. 1. 10
新日鉄住金マテリアルズは引張強度や硬さなどの性能と、加工効率を兼ね備えたハイブリッド型の炭素繊維シート（プリプレグ）を2018年から量産する。電子機器やスポーツ用品向けなどに売りこむ。同社グループの姫路工場を候補に、年間100万平方mの生産能力を持つ設備を立ち上げる。
- KRI 塗膜技術開発 熱処理無で高屈折率 光散乱極限まで抑制** 2018. 1. 10
大阪ガスグループのKRIは、高屈折率のナノハイブリッド膜を形成する塗膜技術を開発した。熱処理工程なしに屈折率をチタン系で1.92、ジルコニウム系で1.76以上に出来る。反射防止膜（ARコート）などへ利用が期待できる。

□古河電工、CNT合成炉 「電線」商用化へ新設 6月メド 2018. 1. 11

古河電気工業はカーボンナノチューブ（CNT）を使った電線の商用化に乗り出す。炭素化合物からCNTを合成する実験炉を6月をめどに同社研究所へ新設する。開発する電線は、一般的に使われる銅線などの代わりにCNTを使う。

□日本板硝子 ガラス製の電子基板 スマホ小型化 後押し 2018. 1. 11

日本板硝子はガラス製の電子基板を開発した。配線を垂直に伸ばして基板上に従来より多くのICチップを実装する「2. 5次元実装」に対応させた。開発したのは微細な穴を開けた「TGV」と呼ぶガラス基板。厚さ0. 1～1mmの薄板ガラスに直径100μm以下の穴を高密度で開けた。

□パナソニック・東京精密 ウェハー切断幅1/5 チップ個数4%増 2018. 1. 17

パナソニックと東京精密は、シリコンウェハー1枚当たりの半導体チップの製造個数が最大4%増える半導体後工程用システムを2月に発売する。後工程のダイシング工程にレーザーとプラズマを用い、ウェハー上のチップの切断幅を、従来のブレード（刃具）手法に比べて約8割減の最小10μmに狭められる。

□慶応大と藤倉化成 電圧かけると瞬時に粘着 ゲルシート開発 2018. 1. 22

慶応義塾大学の柿沼康弘准教授は藤倉化成と共同で、電圧をかけると0. 01秒で粘着するゲルシートを開発した。通常はさらさらしているが、電圧をかけるとベタベタになる。シリコーンゲルに直径15μmのアクリル樹脂などでできた粒子を分散させた。

□名古屋大 炭素繊維簡単合成 太陽電池・有機ELの進化後押し 2018. 1. 26

薄くて強い炭素のシート「グラフェン」を簡単に合成する方法を名古屋大の研究チームが開発した。より高性能な太陽電池や有機ELの開発に役立つそうだという。研究チームは、市販の化合物に触媒を使い、3段階の工程でナノメートルレベルのグラフェンを合成することに成功した。

□三井金属とジオマテック 次世代半導体実装材開発 線幅2μm回路作成

2018. 1. 29

三井金属とジオマテックは、半導体の次世代パッケージ技術の一種、「ファンアウト・パネルレベルパッケージ」（FOPLP）向けの微細回路形成用材料（HRDP）を開発した。600mm角などのガラス板表面に銅などの薄膜を多層形成。配線のL/Sが2μmの微細回路を形成できる。HRDPはジオマテックが生産を、三井金属が販売をそれぞれ担当する。

■カーエレクトロニクス

- トヨタ、レクサスにEV 2020年にも生産開始 2018. 1. 1
- 村上開明堂 電子ルームミラー 量産車に 2020年半ば販売機種 2018. 1. 4
自動車用バックミラー大手の村上開明堂は、鏡とモニターを切り替えられる電子ルームミラーの量産車両への搭載が決まったと発表した。国内自動車メーカーが2020年半ばに発売する車種に搭載される。商品名は「ハイブリッド インナーミラー」。車両後方に備えたカメラで撮影した映像を、特殊ミラー素子を使った室内ミラーに表示する。
- デンソー 軽向けHUD開発 スズキ車に採用 2017. 12. 28
デンソーはヘッドアップディスプレイを軽自動車向けに初めて開発し、スズキが発売した新型「スペーシア」のオプションで採用されたと発表した。
- GM 無人運転19年に 量産車 ハンドルなし「レベル4」 2018. 1. 13
- 大日本印刷 自動車向け ガラス代替樹脂 曲げやすく軽量 2018. 1. 17
大日本印刷はまげやすい自動車向けガラス代替樹脂を開発した。樹脂に傷に強いフィルムを貼った素材でガラスと同等の強度を持つ。
- デクセリアルズ フィルム・接着剤で次世代車向け材料開拓 2018. 1. 19
デクセリアルズは、先進運転システム（ADAS）、電気自動車（EV）、自動運転車など次世代自動車向け材料市場の開拓を強化する。ヘッドアップディスプレイ（HUD）向けに、ガの目の構造を取り入れた反射防止フィルムを開発。紫外線硬化型および熱硬化型接着剤をセンシングカメラモジュールに、微細加工技術を応用した導光板を車内外のメッセージ表示などに展開する。スマートフォン向けに豊富な採用実績を持つ各種ディスプレイ材料を車載グレードに引き上げ、順次投入する考え。
- 富士通ゼネラル、HDR（ハイダイナミックレンジ）対応
車載カメラ、暗い所も鮮明 処理速度4倍 低価格品に対抗 2018. 1. 23
- 独VW 2年連続首位 2017年世界販売 中国・新興国成長取り込む 2018. 1. 31
- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1位 「VW」 | 1074万1500台（前年比4.3%増） |
| 2位 「ルノー・日産・三菱自連合」 | 1060万8366台（前年比6.5%増） |
| 3位 「トヨタ」 | 1038万6000台（前年比2.1%増） |
- 世界の自動車市場は米ゼネラル・モーターズ（GM）が07年まで77年間、販売首位に君臨。リーマンショックが起こった08年にトヨタが首位の座を奪った。近年はトヨタとVWが1000万台前後で首位を競う構図が続いていた。

■企業動向、製品動向

- キャノン M&A 4000億円 医療など育成、20年までに** 2018. 1. 6
キャノンは2020までの3年間で最大4000億円をM&Aに振り向ける。
「医療」「監視カメラ」「産業機器」などの分野。カメラや複合機市場は足元で回復の兆しがあるものの、長期的な大きな成長は見込めない。18年以内に米シリコンバレーに研究開発拠点も開設する。日本の有力企業は経営の安定を優先して内部留保を積み増ししてきた。今後は積極的に成長へ投資する企業が増えそうだ。
- 半導体活況、部材に恩恵** 2018. 1. 11
「リンテック」 粘着テープ（半導体製造工程内使用） 2017/4-12 売上高過去最高
「フェローテック」 石英、セラミック部材 2017/2-12 営業益6年ぶり最高
「信越化学」 シリコンウェハー製造 今期純利益、10年ぶり過去最高
「三益半導体」 シリコンウェハー加工 今期利益予想を上方修正
- 半導体・FPD装置 最高 IOT普及で需要が拡大** 2018. 1. 16
日本半導体製造装置協会（SEAJ）は、半導体製造増値とFPD製造装置の2017年度販売高が、前年度比21.9%増の2町4996億円と過去最高になる見通しをまとめた。
- 設備投資、半導体が主役 IOT需要広がる リーマン前に回復** 2018. 1. 18
- 凸版印刷 中国で最新の回路基板 世界シェア4割狙う** 2018. 1. 19
凸版印刷は最先端の半導体の回路基板（フォトマスク）の製造を2018年度中に中国で始める。中国ではファウンドリー（半導体受託生産会社）大手の中芯国際集成电路製造（SMIC）の新工場など、今後数年で十数カ所の半導体工場が新たに稼働する見通しという。
- スマホ部品 搭載数で明暗 市場成長の鈍化響く 新デバイス開拓左右** 2018. 1. 18
スマホ部品の市況が二極化している。半導体メモリーや積層セラミックコンデンサー（MLCC）の高値基調が続く一方、通信部品の一部に値崩れする製品が出ている（通信やGPSに使う水晶部品、高周波フィルター）。
1台当たり搭載数を伸ばせるかが市況のカギを握り始めた。アップルの新機種は、1千個以上のMLCCを搭載しているとみられ前モデルを1割以上上回る。
- 東芝のパソコン事業 シャープが買収検討 鴻海の基盤活用、再参入へ** 2018. 1. 30
シャープが東芝のパソコン事業の買収を検討していることが29日分かった。両社は実務レベルで協議入りしている。シャープは2010年に自社製のパソコン販売から撤退したが、その後に親会社となった鴻海（ホンハイ）精密工業の事業基盤を強みに再参入を目指す。

■ **C E S (Consumer Electronics Show)** 世界最大の家電見本市 2018.1.9~1.12 (ラスベガス)

- 「A I 産業革命」始動 I T 2 強 (グーグル、アマゾン) が陣取り
車・家電・・・進化競う
- ソニー「車センサー市場を主導」: 平井社長
パナソニック「テスラ電池 中国生産検討」津賀社長
- 自動運転に脚光 半導体業界が先行
- 家電、中韓の独壇場 L G / サムスン・ハイアール
- サムスンが見せつけた「追撃力」家電の王者が車載事業に参戦
全ての家電にA I (人工知能) を搭載することも宣言

■ **その他**

- 日の丸液晶連合 正念場 J D I 中韓攻勢 脱スマホ急ぐ
再建資金 カギは外資 2018. 1. 30
- アジア経済 進む「中国化」 G D P 押し上げ効果 3 0 年に米を圧倒
高い貿易依存 政治リスクに 2018. 1. 6

以上